

東京大学
教養学部前期課程
主題科目「国際研修」
教養学部
「後期国際研修」
2016 年度報告書

国際研修委員会

2017 年 7 月

2016年度「国際研修」実施を振り返って

2016年度国際研修委員会委員長 伊藤たかね

本学部における総合的教育改革の一つの大きな柱として「国際化・グローバル化」の目標が掲げられ、前期課程教育のグローバル化を推進する柱として「国際研修」科目が主題科目の一つとして2015年度から開設された。2016年度は2年目にあたるが、前年度から引き続きもう1年、「試行」としていくつかの科目を開講することとした。2年目に入ったとは言え、実際の授業実施と制度整備とが並行して走るという状況は変わらず、様々な壁にぶつかりながらの運営が続いた。大変な手間をいとわずに授業を設計し担当して下さった先生方、それを支えて下さった関谷事務部長および教務課をはじめとする事務方の皆さん、国際研修委員会のメンバーの先生方、そしてTAとして授業を支えて下さった皆さんの、ご尽力の賜物である。あつく御礼申し上げたい。そして何より、「国際研修」は学生が主体的に作り上げて行くことのできる授業であり、今年度も「国際研修」の授業が一定の成功をおさめることができたとしたら、それは受講生のみなさんの力によるものである。

「国際研修」の授業は、海外滞在や国際交流の経験の乏しい前期課程学生が「外」の世界に視野を広げ、他者を理解し自己を相対化する力をつけるリベラルアーツ教育の一端を担うものとして設計されており、いわば、国際教育の「はじめの一步」を目指している。学部教育の国際化の大きな柱であることはもちろんのことであるが、本質的にアクティブラーニングの性格をもつ授業群であり、二重の意味で総合的教育改革の趣旨を推進する試みであることを強調しておきたい。

以下に関連のデータをまとめて2年目の報告書とするが、いくつか、国際研修の授業運営の成果と課題をまとめておきたい。

2016年度は、残念ながら開講数、受講者数ともに2015年度よりも減っている(p.3)。2015年度に30名近くを送り出したTLP生向けの英語研修が2016年度には行われなかったことが大きな要因であるが、それを除いても減少傾向である。「試行」としての実施は2016年度までであり、2017年度からは広く教授会構成員全員に開講希望を募る形にすることを2016年度中に決定したが、授業負担が担当教員の「持ち出し」であるなど改善されていない点も多く、開講数の飛躍的な増加を期待することはできないのが現状である。

全学における学部教育国際化の議論の中では、トライリンガルプログラム(TLP)、グローバルリーダー育成プログラム(GEfil)などの「トップ層」に対する施策はかなり充実してきているのに対し、それ以外の学生への支援強化が喫緊の課題であるとの認識が共有されつつあり、「はじめの一步」を目指した前期課程国際研修授業はその意味で注目されている。総合文化研究科の2017年1月の教授会における総長発言で「国際研修」授業の重要性が明示的に言及されたのは、そのひとつのあらわれである。しかしながら、総合文化研究科内では、国際研修を含めた学部教育の国際化についての議論が高まっているわけではなく、本部の各種会議で国際研修等の話題が頻繁に取り上げられているのと対照的である。全学における議論の動向を踏まえれば、大学としてどの程度の規模で学生の海外派遣を実現しようとするのか、その中で学部前期課程教育はどの程度の規模でどのような役割を果たすべきなのか、実施目標を明確化した上で、そのために必要な人的・予算的リソースの手当を具体化すべき時期に来ていると言える。

リソースの点から、2015年度の報告書では2つの大きな課題があることを指摘した。まず第一は、学生の経済的自己負担の大きさ、第二は、担当教員の負担の重さである。2016年度時点では残念ながらこれらの課題は解決を見ていないが、学部教育の国際化という全学的ミッションの中に国際研修授業の意義が大きく位置付けられるのであれば、これをサステイナブルに運営して行くための適切なリソース配分が必要であることは言を俟たない。これは教養学部のみで解決を図るべき問題ではなく、大学本部と教養学部執行部との間で議論を深め、密接な協力関係のもとに解決の糸口を見出すことが期待される。

学生の反応が「国際研修」授業の開講について概して肯定的であるのは、2015年度からあまり変化はない。授業後のアンケートの自由記述欄（本報告書では割愛）では、授業の意義を高く評価するコメントとともに、具体的な授業運営についての批判的な意見、改善を求める意見なども多く寄せられているが、建設的な方向性をもった意見が多く、国際研修の趣旨自体に対する批判的な意見は見られなかった。ほとんどのクラスで文理にわたる学生が受講していること（p. 6）、多くのクラスで受講希望者が履修可能者を大幅に上回ったこと（p. 14）も2015年度と同様である。

安全管理にかんすることは、野外活動の届け出にかかわる承認、海外旅行保険の加入状況把握、授業実施中の定期的な報告など、国際研修委員会ではなく研究科長室が管理する態勢が2016年度からとられている。学生に危機管理の力を身につけさせることも「はじめの一步」の大きな役割であるので、道に迷う、盗難にあう、パスポートを紛失する、といった類の「事故」にあわないような注意をさせるだけでなく、あった場合には自力で解決する努力をさせることも教育として重要であるという視点は維持しつつも、個人では解決できないレベルの危険に遭遇する可能性を視野に入れた対応が求められていることに留意しなければならない。国際研修に限らず、海外に派遣されている学生についての危機管理体制について研究科全体として今後も継続的な検討が必要である。

2016年度から、国際研修委員会は前期課程主題科目「国際研修」および後期課程「後期国際研修」にかかわる教務的な面を管理する委員会として、前期および後期の選出母体から選出される委員からなる委員会として運営されている。総合的教育改革の議論の中で、教育のグローバル化についてその方向性を議論するグローバル化推進委員会の下に置かれていた前身の委員会とは、その機能は大きく変わってきており、いわば定まった線路の上をスムーズに走らせるための委員会となっている。事業の方向性や規模といった制度設計は、国際研修委員会の職掌として扱える問題ではなく、すでに述べたように、全学の方針の下に学部執行部が本部と協力しながら描いていくべきものである。その設計図にそって国際研修委員会が実施の教務的実務を担当するという形で、さらに実りの多い授業展開が可能になっていくことを期待したい。

目次

1. 2016年度主題科目「国際研修」実施一覧	1
(1) S セメスター／S2ターム	1
(2) A セメスター／A2ターム	2
2. 前年度からの研修事後アンケート結果の推移の概要	3
3. 科類・学年別履修者数一覧	6
4. 講義ごとの科類・学年別履修者一覧	7
(1) S セメスター／S2ターム	7
(2) A セメスター／A2ターム	8
5. 研修費用・補助金一覧	10
(1) S セメスター／S2ターム	10
(2) A セメスター／A2ターム	10
6. 研修時の事故一覧	11
7. 教員アンケート	12
(1) 回答教員・実施授業一覧	12
(2) アンケート結果	13
8. 学生アンケート	17
(1) アンケート回答状況	17
(2) アンケート結果	18

1. 2016 年度主題科目「国際研修」実施一覧

(1) S セメスター／S2 ターム

開講 区分	担当教員	所属 (部会等)	対象課程	講義題目	渡航先	事前講義 の有無	引率の 有無	出発日	帰着日	履修 者数
S2	トム・ガリー	英語	前期	Tokyo: Representation and Reality	国内	無	有	6月6日	7月5日	2
S2	森井 裕一	ドイツ語	前・後期	EU の現状と課題	ドイツ	無	有	8月2日	8月13日	5
S2	森井 裕一	ドイツ語	前期	ボン大学ドイツ語サマースクール	ドイツ	無	有	8月21日	9月4日	14

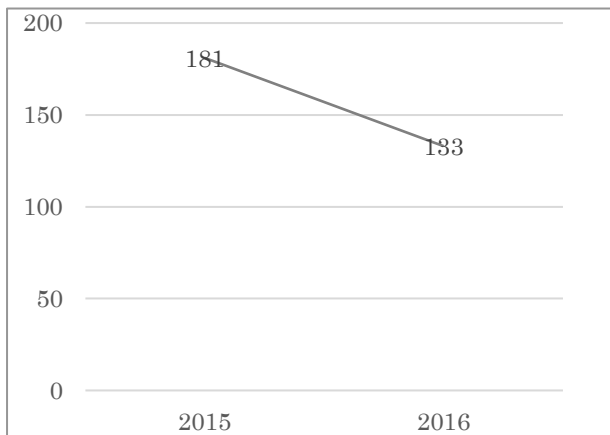
*このほかに「The University of Tokyo Summer Internship Program in Kashiwa (UTSIP Kashiwa)」が開講されたが本年は履修者がいなかった。

(2) A セメスター/A2 ターム

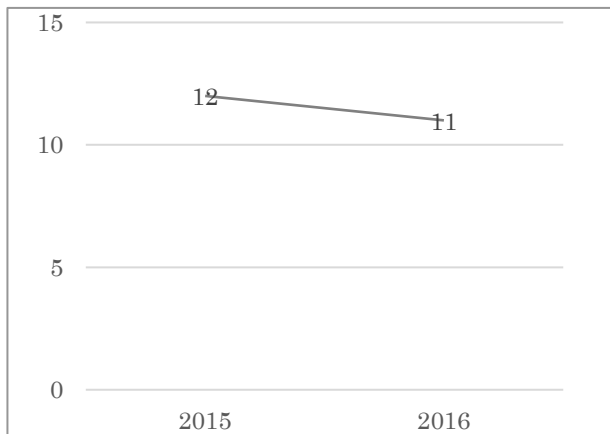
開講 区分	担当教員	所属 (部会等)	対象課程	講義題目	渡航先	事前講義の 有無	引率の 有無	出発日	帰着日	履修 者数
A	刈間 文俊	教養教育 高度化機構	前期	中国語サマースクール	中国	無	有	8月7日	8月28日	20
A	櫻井 勇介	国際交流 センター	前期	In the Pursuit of Culture, History and Architecture in Central Europe, Hungary	ハンガリー	無	有	8月27日	9月11日	14
A	矢口 祐人	英語	前・後期	UTokyo/ANU Exchange in Tokyo and Canberra, Australia	オーストラリア	無	有	1月29日	2月11日	11
A	月脚 達彦	言語情報 科学専攻	後期	ソウル大学ウィンタープログラム	ソウル	無	有	2月1日	2月15日	9
A	櫻井 勇介	国際交流 センター	前期	短期集中英語: オーストラリアで上級を目指す!	オーストラリア	無	有	2月25日	3月5日	18
A2	岡田 晃枝	教養教育 高度化機構	前期	平和のために東大生ができること: カザフスタン研修	カザフスタン	有	有	2月28日	3月15日	18
A2	エリス 俊子	言語情報 科学専攻	後期	Visible/invisible Cities: Sydney/Melbourne	東京	無	有	1月19日	1月27日	8*
A2	エリス 俊子	言語情報 科学専攻	後期	Visible/Invisible Cities in Tokyo	シドニー・ メルボルン	無	有	2月19日	2月25日	14
									計	133

*このほかに6名の大学院生が参加しているが、主題科目「国際研修」または、「後期国際研修」ではない。

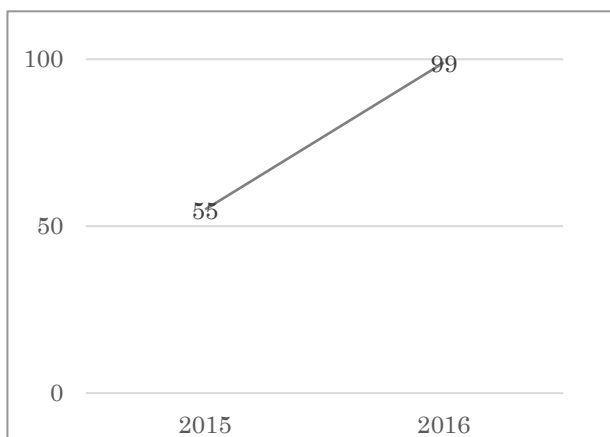
2. 前年度からの研修事後アンケート結果の推移の概要



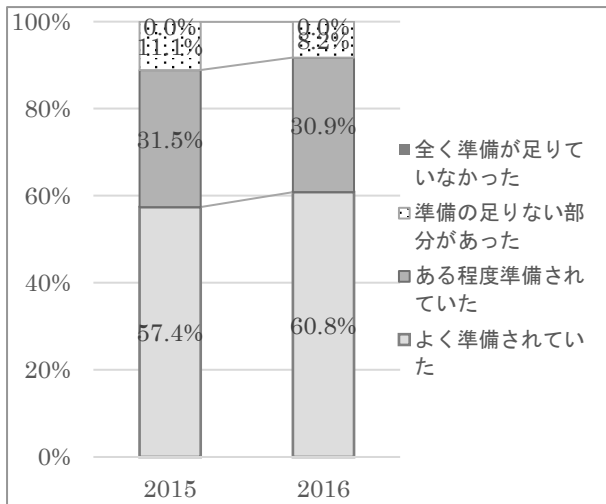
(1) 履修者数の推移



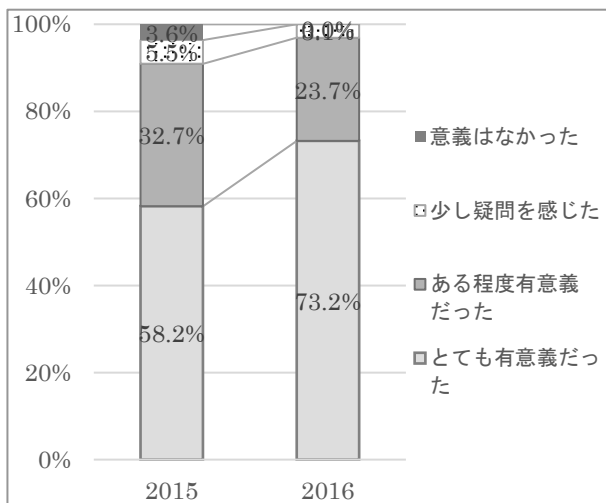
(2) 授業数の推移



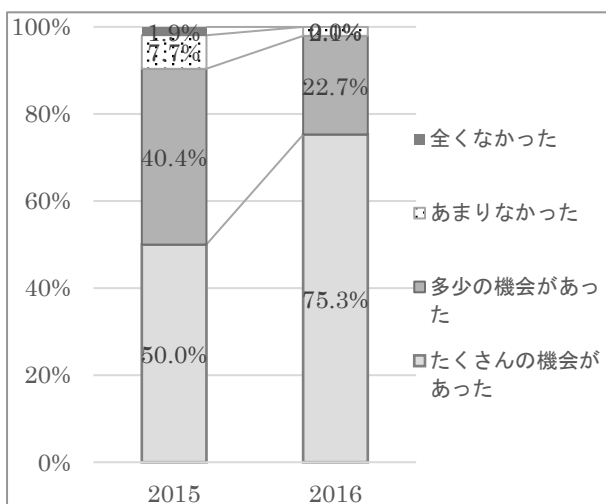
(3) 事後アンケートへの学生回答数の推移



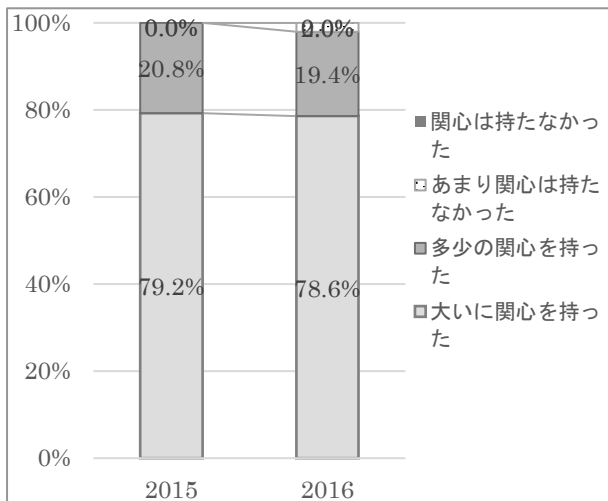
(4) 質問「プログラムはよく準備されたものでしたか」に対する学生回答の推移



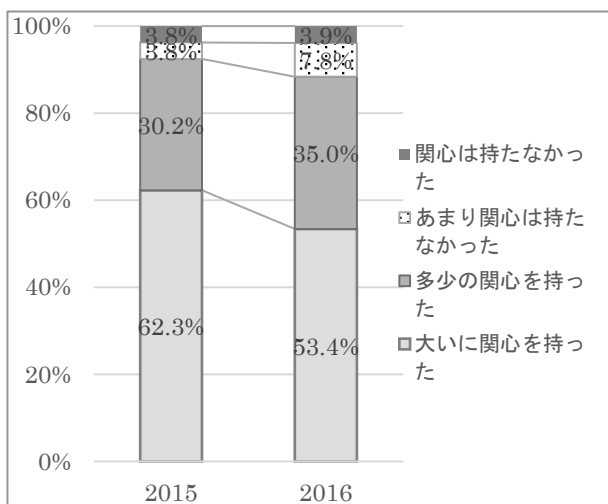
(5) 質問「プログラムは外国語使用の場として有意義なものでしたか」に対する学生回答の推移



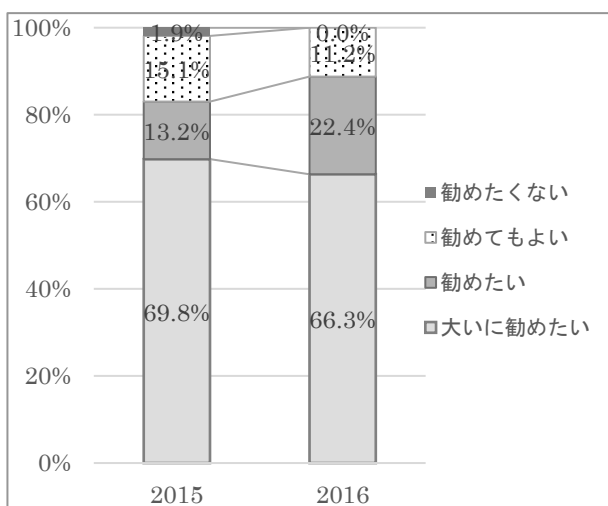
(6) 質問「現地の学生との交流の機会がありましたか」に対する学生回答の推移



(7) 質問「研修を通じて研修先の国・地域の文化に関心を持ちましたか」に対する学生回答の推移



(8) 質問「国際研修を履修することで長期留学への関心を持ちましたか」に対する学生回答の推移



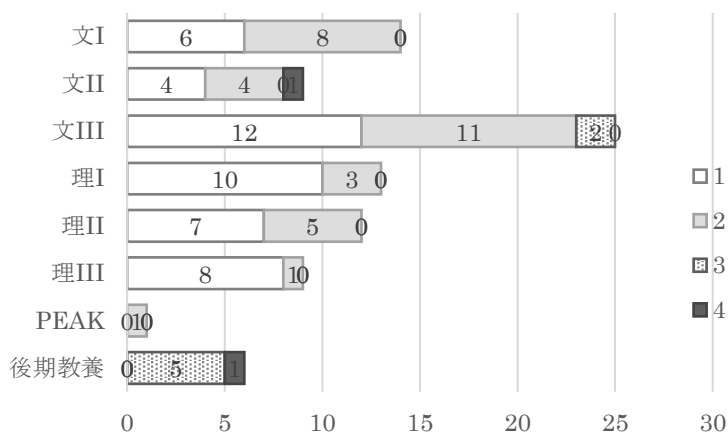
(9) 質問「受講したプログラムはほかの学生にも履修を勧めたいものでしたか」に対する学生回答の推移

3. 科類・学年別履修者数一覧

学生がすべての問いに答えていない場合もあるため、それぞれの問いに対する回答の総数が異なる。

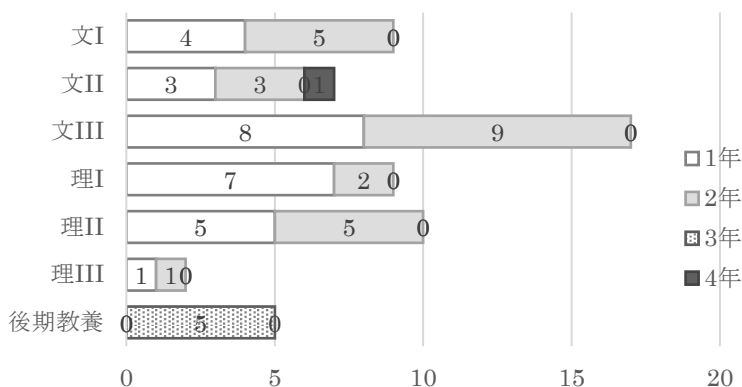
(1) S セメスター／S2 タームおよび A セメスター／A2 ターム科類・学年別履修者数

	1年	2年	3年	4年
文 I	6	8	0	0
文 II	4	4	0	1
文 III	12	11	2	0
理 I	10	3	0	0
理 II	7	5	0	0
理 III	8	1	0	0
PEAK	0	1	0	0
後期教養	0	0	5	1
	47	33	7	2



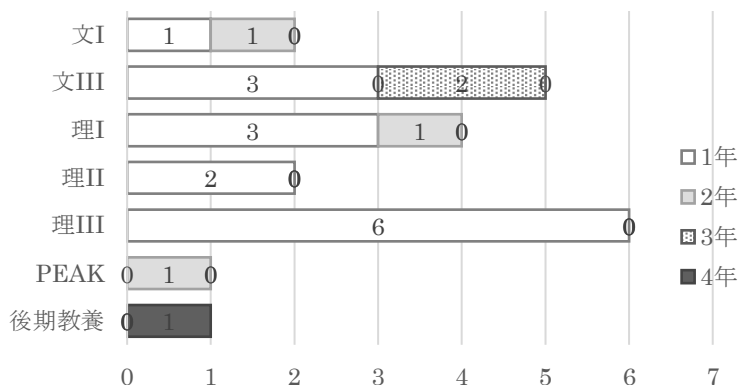
(2) S セメスター／S2 ターム

	1年	2年	3年	4年
文 I	5	7	0	0
文 II	4	4	0	1
文 III	9	11	0	0
理 I	7	2	0	0
理 II	5	5	0	0
理 III	2	1	0	0
後期教養	0	0	5	0
計	32	30	5	1



(3) A セメスター／A2 ターム

	1年	2年	3年	4年
文 I	1	1	0	0
文 III	3	0	2	0
理 I	3	1	0	0
理 II	2	0	0	0
理 III	6	0	0	0
PEAK	0	1	0	0
後期教養	0	0	0	1
計	15	3	2	1



4. 講義ごとの科類・学年別履修者一覧

(1) S セメスター／S2 ターム

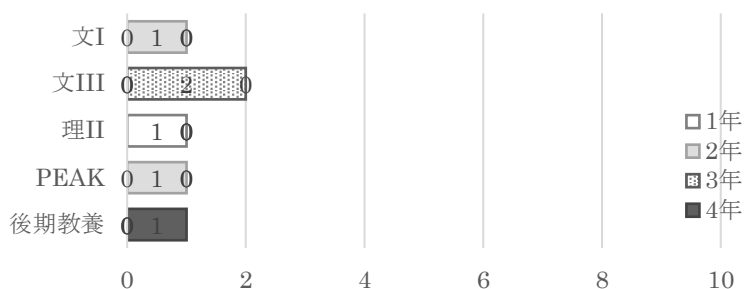
a. Tokyo: Representation and Reality

	1年	2年	3年	4年
理I	0	1	0	0
計	0	1	0	0



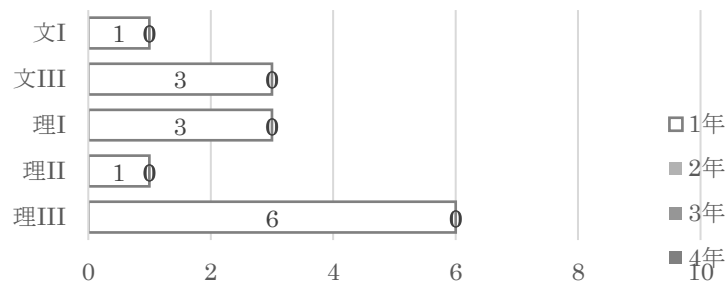
b. EUの現状と課題

	1年	2年	3年	4年
文I	0	1	0	0
文III	0	0	2	0
理II	1	0	0	0
PEAK	0	1	0	0
後期教養	0	0	0	1
計	0	0	2	0



c. ボン大学ドイツ語サマースクール

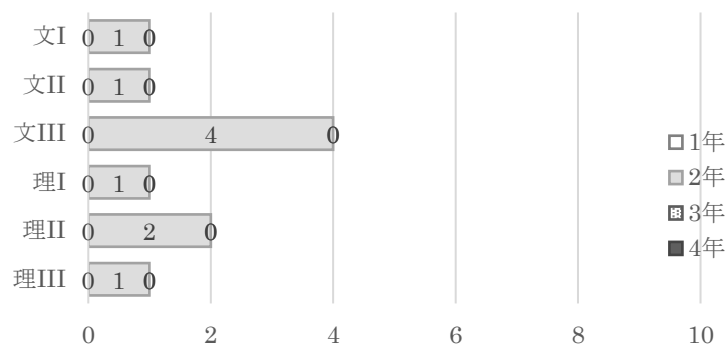
	1年	2年	3年	4年
文I	1	0	0	0
文III	3	0	0	0
理I	3	0	0	0
理II	1	0	0	0
理III	6	0	0	0
計	14	0	0	0



(2) A セメスター/A2 ターム

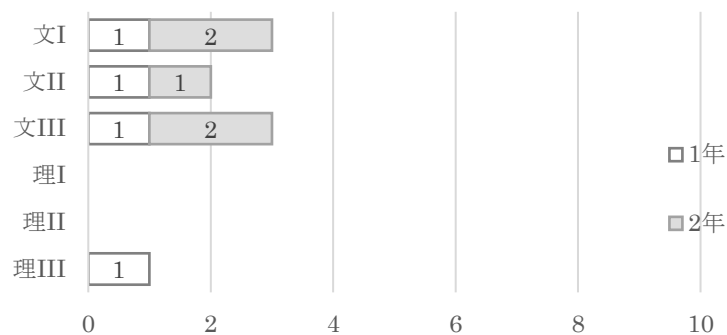
d. 中国語サマースクール

	1年	2年	3年	4年
文 I	0	1	0	0
文 II	0	1	0	0
文 III	0	4	0	0
理 I	0	1	0	0
理 II	0	2	0	0
理 III	0	1	0	0
計	0	10	0	0



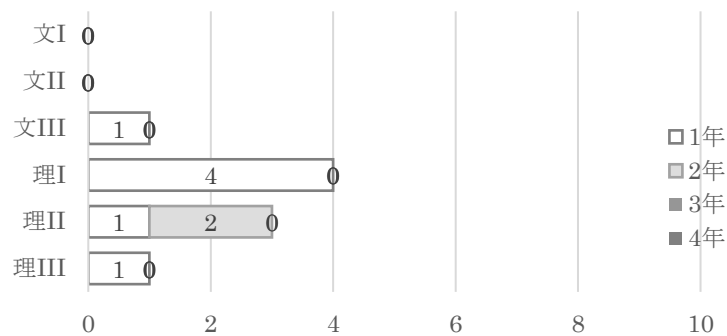
e. In the Pursuit of Culture, History and Architecture in Central Europe, Hungary

	1年	2年	3年	4年
文 I	1	2	0	0
文 II	1	1	0	0
文 III	1	2	0	0
理 I	0	0	0	0
理 II	0	0	0	0
理 III	1	0	0	0
計	3	5	0	0



f. UTokyo/ANU Exchange in Tokyo and Canberra, Australia

	1年	2年	3年	4年
文 I	0	0	0	0
文 II	0	0	0	0
文 III	1	0	0	0
理 I	4	0	0	0
理 II	1	2	0	0
理 III	1	0	0	0
計	7	2	0	0

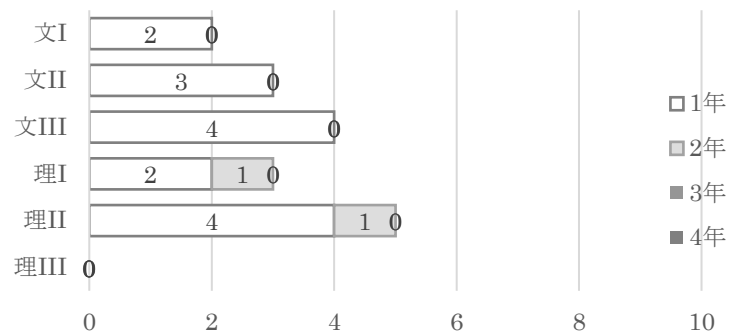


g. ソウル大学ウィンタープログラム

学生回答なし

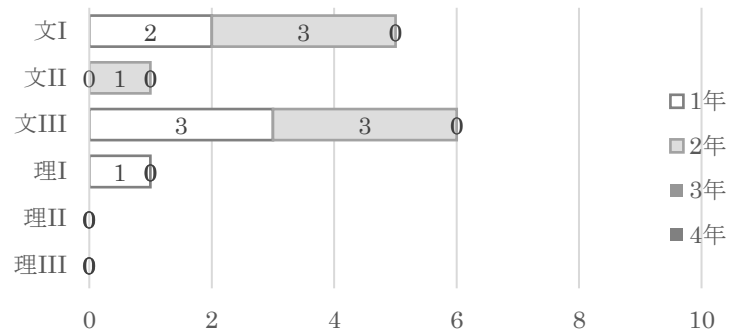
h. 短期集中英語: オーストラリアで上級を目指す!

	1年	2年	3年	4年
文I	2	0	0	0
文II	3	0	0	0
文III	4	0	0	0
理I	2	1	0	0
理II	4	1	0	0
理III	0	0	0	0
計	15	2	0	0



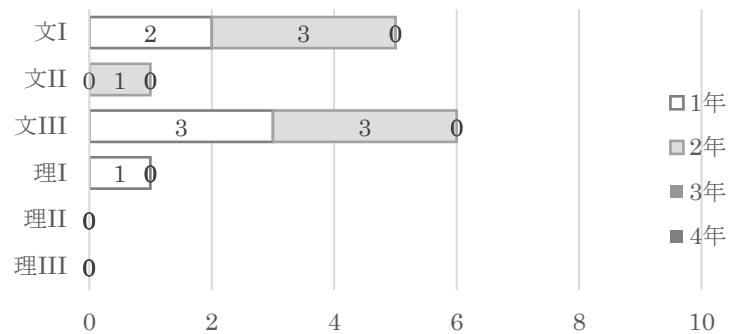
i. 平和のために東大生ができること: カザフスタン研修

	1年	2年	3年	4年
文I	2	3	0	0
文II	0	1	0	0
文III	3	3	0	0
理I	1	0	0	0
理II	0	0	0	0
理III	0	0	0	0
計	6	7	0	0



j. Visible/invisible Cities: Sydney/Melbourne

	1年	2年	3年	4年
文I	0	1	0	0
文II	0	1	0	0
文III	0	2	0	0
理I	0	0	0	0
理II	0	0	0	0
理III	0	0	0	0
後期教養	0	0	5	0
計	0	4	5	0



k. Visible/Invisible Cities in Tokyo

学生回答なし

5. 研修費用・補助金一覧

(1) S セメスター／S2 ターム

開講区分	講義題目	渡航先	学生ひとりあたりの研修費用	補助金の有無と金額	補助金受給者数	履修者数
S2	Tokyo: Representation and Reality	日本	0	無	0	2
S2	EU の現状と課題	ドイツ	104,116 円+1,350 ユーロ	有 104,116 円+1,350 ユーロ (ドイツ学術交流会)	5	5
S2	ボン大学ドイツ語サマースクール	ドイツ	32 万円	有 約 2 万 2 千ユーロ(ドイツ学術交流会) 約 1 万 6 千ユーロ(ボン大学)	14	14

(2) A セメスター／A2 ターム

開講区分	講義題目	渡航先	学生ひとりあたりの研修費用	補助金の有無と金額	補助金受給者数	履修者数
A	中国語サマースクール	中国	11 万 5 千円	有 11 万 5 千円	20	20
A	In the Pursuit of Culture, History and Architecture in Central Europe, Hungary	ハンガリー	27 万円	無	0	14
A	UTokyo/ANU Exchange in Tokyo and Canberra, Australia	オーストラリア	35 万円	有 7 万円(JASSO)	5	11
A	ソウル大学ウィンタープログラム	ソウル	無回答	無回答	無回答	9
A	短期集中英語: オーストラリアで上級を目指す!	オーストラリア	約 40 万円	有 7 万円(JASSO)	3	18
A2	平和のために東大生ができること: カザフスタン研修	カザフスタン	約 20 万円	有 7 万円(JASSO)	12	18
A2	Visible/invisible Cities: Sydney/Melbourne	シドニー・ メルボルン	約 20 万円	有 約 10 万円(リーディング大 学院プログラム・JASSO など)	8	8
A2	Visible/Invisible Cities in Tokyo	東京	5000 円	無	0	14

6. 研修時の事故一覧

講義題目	事故内容	対応と経過
平和のために東大生 ができること:カザフ スタン研修	体調不良	<p>気温の大きな変化が主な原因と思われるが、39度台の高熱を出した学生が2名いた。1名は救急隊を呼んでその場で診察を受け、処方箋を書いてもらい、薬局で薬を買って服用したところ、翌日にはほぼ回復した。</p> <p>もう1名は地方都市セメイ(非常に寒い)での発熱で、原因は扁桃腺炎であった。そこでの交流先が医科大学であったので、交流先の教授(医師)に連絡を取ったところ、すぐに往診・処置してくれた。抗生物質(注射)の投与が繰り返し必要であったが、セメイ滞在中はその医師が早朝から夜遅くまで定期的に訪問して注射をしてくれた。セメイから主要滞在先のアルマティへの復路やアルマティに着いてからの処置についても十分な説明と根回しをしてもらえた。</p> <p>カザフスタンではFirst Aidは無料なので、前者に対する救急隊による診察・処方箋の発行や、後者に関しての空港での駐在医師による注射は無料で行われた。また、診察・処方してくれた交流先大学の医師は診察代や治療代を辞退した。(注射器も含め)医薬品は有料だが、非常に安価(たとえば8回分の抗生物質とそのための8本の注射器が300円弱)のため、海外旅行保険を使って費用を保険会社に請求するかどうかは帰国後、親と相談して決めるようにと伝えた。保険金請求の履歴がつくよりも、数百円から1000円程度ならば自腹を切るほうがよい、という判断になったと聞いている。</p>
UTokyo/ANU Exchange in Tokyo and Canberra, Australia	携帯電話の紛失	現地の警察に報告し、盗難届を作成。学生には日本に帰国後、旅行保険で補償がなされるか保険会社に問い合わせるように指導。
短期集中英語: オーストラリアで上級を目指す!	パソコンの紛失	現地の警察に報告し、盗難届を作成。学生には日本に帰国後、旅行保険で補償がなされるか保険会社に問い合わせるように指導。

7. 教員アンケート

(1) 回答教員・実施授業一覧

a. S セメスター／S2 ターム

講義題目	報告書中の略称	回答者
Tokyo: Representation and Reality	東京 Reality	トム・ガリー・文景楠
EU の現状と課題	EU	平松 英人
ボン大学ドイツ語サマースクール	ボン	平松 英人

b. A セメスター／A2 ターム

講義題目	報告書中の略称	回答者
中国語サマースクール	中国語	白 春花
In the Pursuit of Culture, History and Architecture in Central Europe, Hungary	ハンガリー	櫻井 勇介
UTokyo/ANU Exchange in Tokyo and Canberra, Australia	ANU	佐藤 亮司
ソウル大学ウィンタープログラム	ソウル大	金享貞・田中秀典・駒井早貴
短期集中英語: オーストラリアで上級を目指す!	短期集中英語	櫻井 勇介
平和のために東大生ができること: カザフスタン研修	カザフスタン	岡田 晃枝
Visible/invisible Cities: Sydney/Melbourne	シドニー・メルボルン	エリス 俊子
Visible/Invisible Cities: Tokyo	東京 Visible	エリス 俊子

(2) アンケート結果

国際研修科目の開講に関する情報は教員に周知されていたと考えますか？

1-十分に周知されていた	4名
2-ある程度周知されていた	5名
3-周知が足りないところがあった	0名
4-周知されていなかった	0名
無回答(または該当せず)	5名

国際研修科目を担当するにあたって国際研修委員会での議論は十分に伝わっていましたか？

1-十分に伝わっていた	0名
2-ある程度伝わっていた	9名
3-伝わっていなかった部分がある	0名
4-伝わっていなかった	0名
無回答(または該当せず)	5名

国際研修科目の開講にあたってはあらかじめ国際研修委員会に「企画書」を提出し、了承を得ることになっています。この手続は十分に機能していたと考えますか？

1-十分に機能していた	5名
2-ある程度機能していた	3名
3-機能していなかった部分がある	1名
4-機能していなかった	0名
無回答(または該当せず)	5名

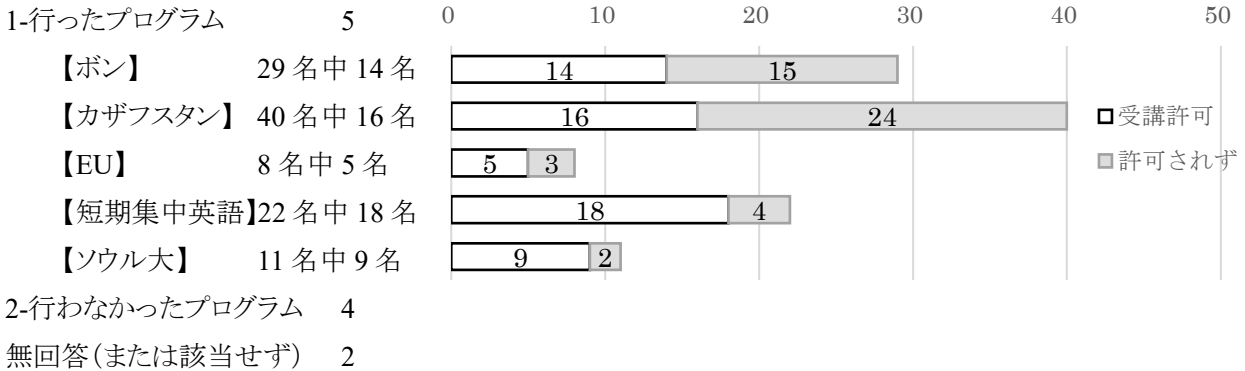
国際研修科目の開講にあたって講義題目・授業内容に関し国際研修委員会との調整を十分に行うことができましたか。

1-十分に行えた	1名
2-ある程度行えた	6名
3 行えなかった部分がある	2名
4-行えなかった	0名
無回答(または該当せず)	5名

国際研修科目の開講にあたって講義題目・授業内容に関し国際研修委員会との調整の必要を感じましたか？

- 1-大いに必要だと感じた 2名
- 2-ある程度必要だと感じた 4名
- 3-あまり必要ではないと感じた 3名
- 4-必要ではないと感じた 0名
- 無回答(または該当せず) 5名

受講者の選抜を行いましたか？



国際研修科目の開講にあたって GO(Globalization Office)との連携は十分でしたか？

- 1-十分に連携できた 6名
- 2-ある程度連携できた 4名
- 3-連携の足りない部分があった 0名
- 4-連携できていなかった 0名
- 無回答(または該当せず) 4名

海外研修の実施にあたって危機管理態勢は十分に整えられていたと考えますか？

- 1-十分に整えられていた 7名
- 2-ある程度整えられていた 2名
- 3-あまり整えられていなかった 0名
- 4-整えられていなかった 2名
- 無回答(または該当せず) 3名

危機管理のための書類(学生の誓約書等)の書式, 提出手続, 保管態勢は整っていたと考えますか？

- 1-十分に整っていた 7名
- 2-ある程度整っていた 2名
- 3-あまり整っていなかった 1名
- 4-整っていなかった 1名
- 無回答(または該当せず) 3名

OSSMA のサービスを利用しましたか。

1-はい	2名
2-いいえ	9名
無回答(または該当せず)	3名

国際研修実施にあたっての学生の費用負担額はいくらでしたか？その額は妥当だったと考えますか？

【東京 Reality】	3-6万円	妥当だった
【ボン】	15万円	やや負担が大きかった
【中国語】	0万円	妥当だった
【カザフスタン】	20万	妥当だった
【ハンガリー】	30万円	おおむね妥当だった
【短期集中英語】	40万円	やや負担が大きかった
【ANU】	30万円	おおむね妥当だった
【シドニー・メルボルン】	8万円	おおむね妥当だった
【ソウル大】	ほぼなし	おおむね妥当だった

そのほかのプログラムからは無回答。

1-妥当だった	3プログラム
2-おおむね妥当だった	4プログラム
3-やや負担が大きかった	2プログラム
4-負担が大きかった	0プログラム

担当した海外研修において学生に対する旅行費用の補助はありましたか？

1-すべての学生に補助があった	3名
2-一部の学生に補助があった	4名
3-補助はなかった	3名
無回答(または該当せず)	4名

「一部の学生に補助があった」と回答した方は、補助の配分方法は妥当だったと考えますか？

1-妥当であった	0名
2-おおむね妥当であった	2名
3-やや問題があった	1名
4-問題があった	0名

国際研修で引率した方にうかがいます。参加学生の人数に対して引率者の数は妥当であったと考えますか？

- | | |
|--------------|----|
| 1-妥当であった | 8名 |
| 2-おおむね妥当であった | 3名 |
| 3-少し足りなかった | 1名 |
| 4-足りなかった | 0名 |
| 無回答(または該当せず) | 2名 |

国際研修で引率した方にうかがいます。海外研修実施にあたって出張旅費以外の費用を負担しましたか？

- | | |
|--------------|----|
| 1-かなりの負担があった | 0名 |
| 2-やや負担があった | 4名 |
| 3-負担はなかった | 6名 |
| 無回答(または該当せず) | 4名 |

今後も国際研修科目を担当したいと考えますか？

- | | |
|---------------|----|
| 1-今後もぜひ担当したい | 7名 |
| 2-依頼されれば担当する | 4名 |
| 3-できれば担当したくない | 1名 |
| 4-担当したくない | 0名 |
| 無回答(または該当せず) | 2名 |

今後、国際研修科目の開講数はふやすべきだと考えますか？

- | | |
|----------------|----|
| 1-大いにふやすべきである | 5名 |
| 2-ある程度ふやすべきである | 6名 |
| 3-現状の数でよい | 1名 |
| 4-減らすべきである | 0名 |
| 無回答(または該当せず) | 2名 |

8. 学生アンケート

(1) アンケート回答状況

講義題目	回答学生数	履修者数
Tokyo: Representation and Reality	1	2
EU の現状と課題	8	5
ボン大学ドイツ語サマースクール	14	14
中国語サマースクール	10	20
In the Pursuit of Culture, History and Architecture in Central Europe, Hungary	13	14
UTokyo/ANU Exchange in Tokyo and Canberra, Australia	11	11
ソウル大学ウィンタープログラム	0	9
短期集中英語: オーストラリアで上級を目指す!	18	18
平和のために東大生ができること: カザフスタン研修	13	18
Visible/invisible Cities: Sydney/Melbourne	10	8
Visible/Invisible Cities in Tokyo	0	14
計	99	133

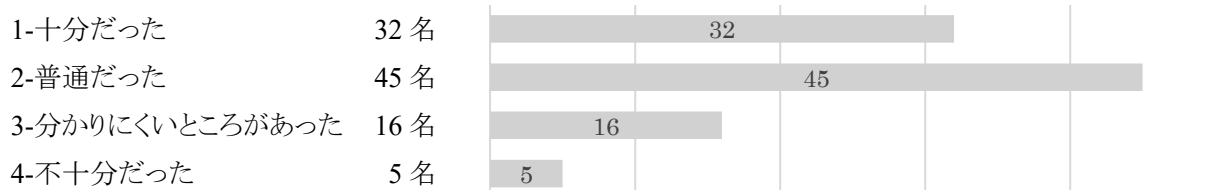
(2) アンケート結果

学生がすべての問いに答えていない場合もあるため、それぞれの問いに対する回答の総数が異なる。

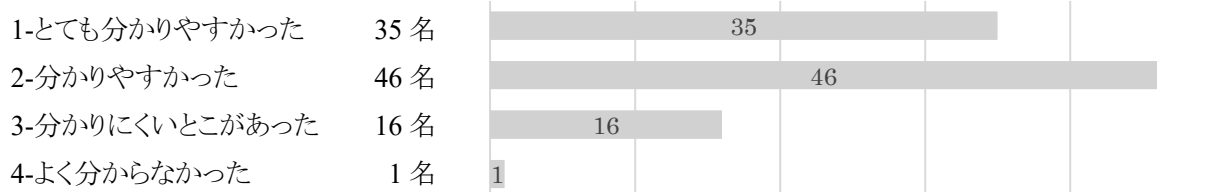
[1] 国際研修の目的・趣旨について受講前に十分理解していましたか？



[2] 今回受講した国際研修についてシラバスの説明は十分でしたか？



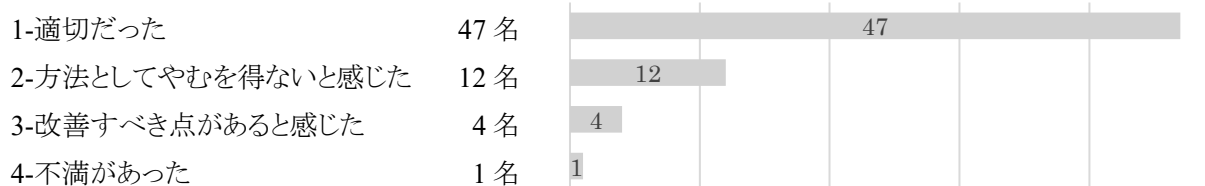
[3] 開講前の説明会の説明は分かりやすいものでしたか？



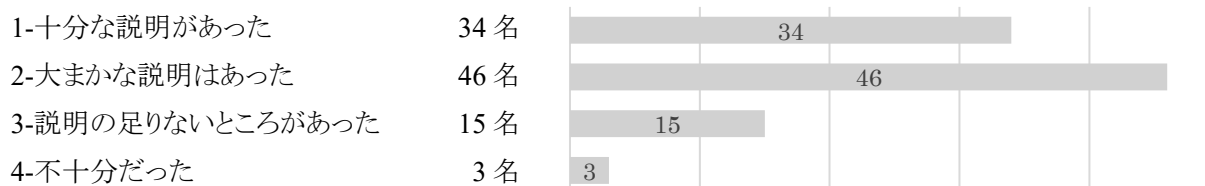
[4] 受講者の選抜等がありましたか？



[5] 質問[4]で「あった」と答えた人は、選抜方法は適切だと感じましたか？



[6] 参加費用についての事前説明は十分でしたか？



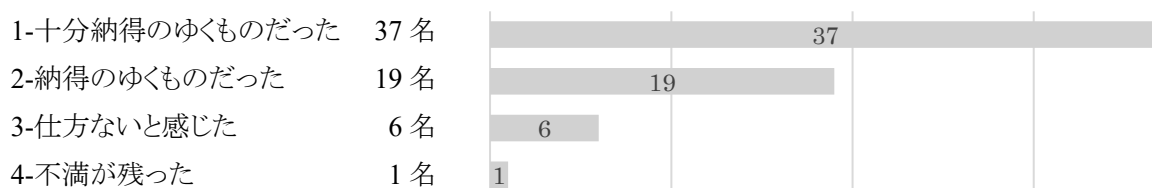
[7] 参加費用についてどのように感じましたか？



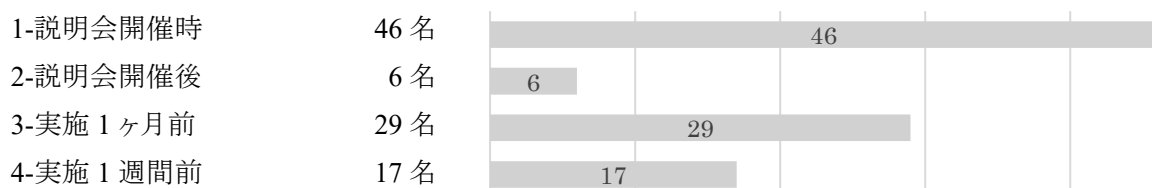
[8] 参加費用に補助はありましたか？



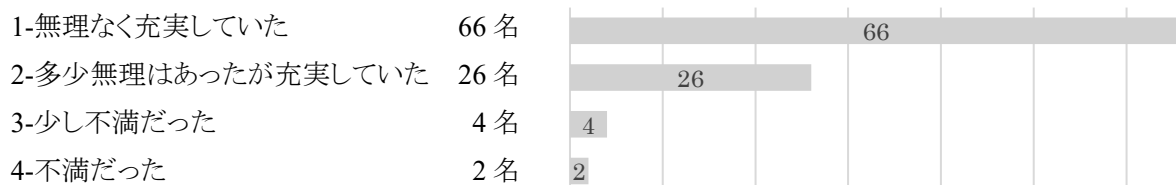
[9] 質問[8]で「あった」と答えた人は、参加費用に対する補助の配分方法は納得のゆくものだと感じましたか？



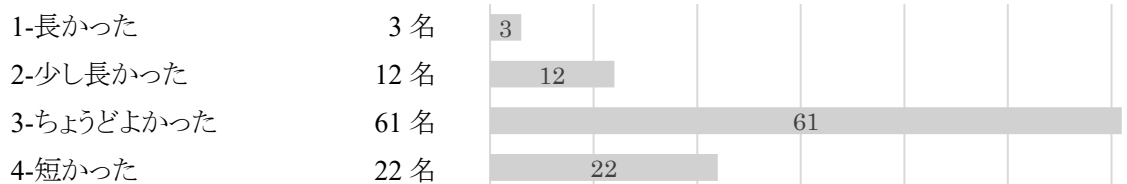
[10] 旅程について旅程表等により周知されたのはいつごろでしたか？



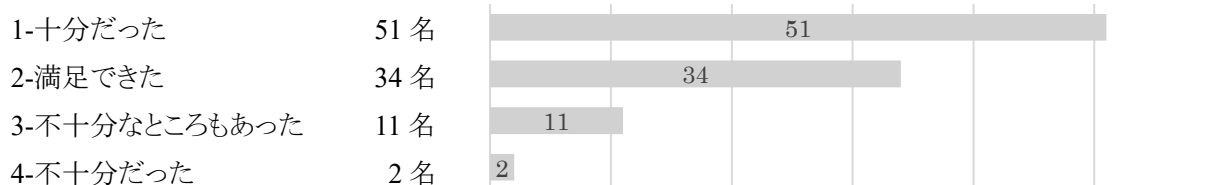
[11] 旅程は無理のない充実したものでしたか？



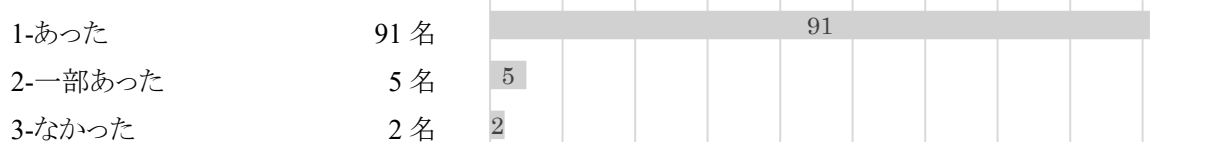
[12] 旅行期間についてどのように感じましたか？



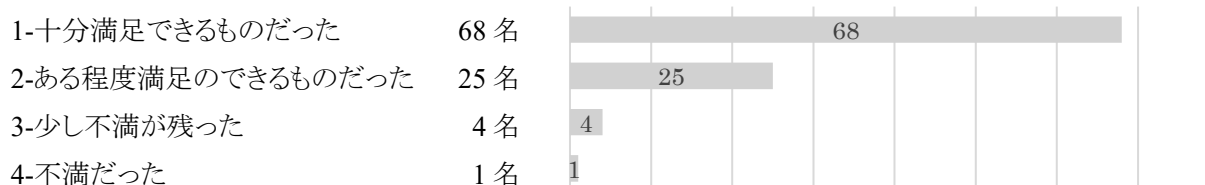
[13] 旅行についての事前の注意・助言等は十分でしたか？



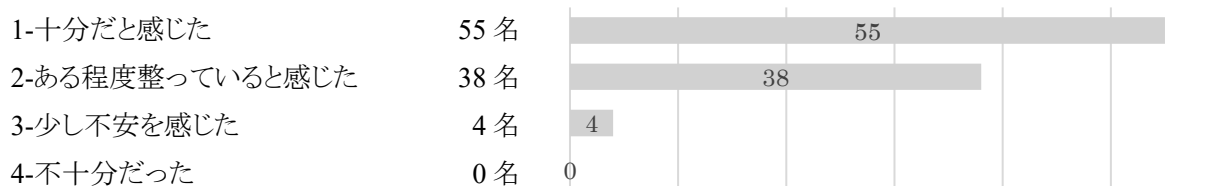
[14] 教員の引率はありましたか？



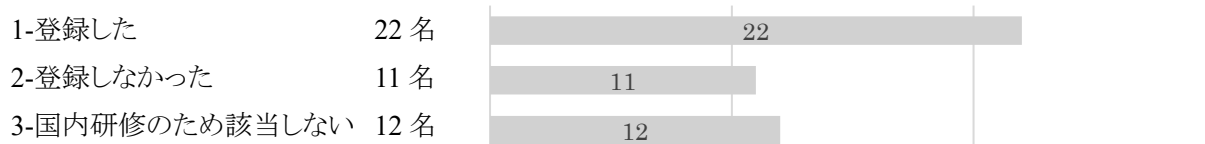
[15] 旅行中、引率教員・受け入れ先機関等のサポート態勢は満足できるものでしたか？



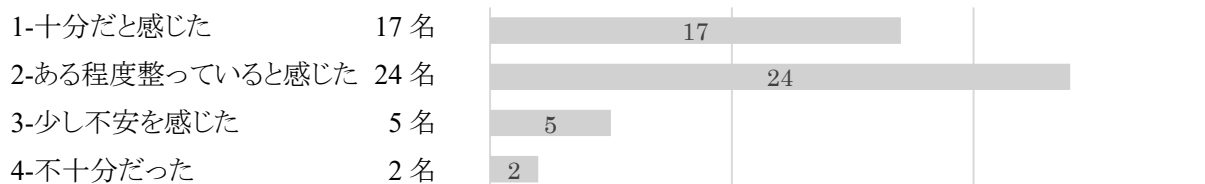
[16] 危機管理態勢は十分だと感じましたか？



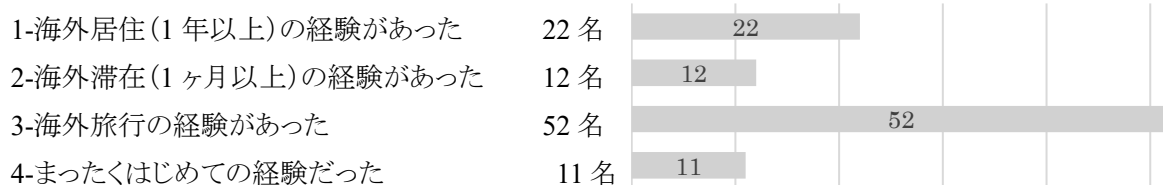
[17a] OSSMA のサービスに登録しましたか？



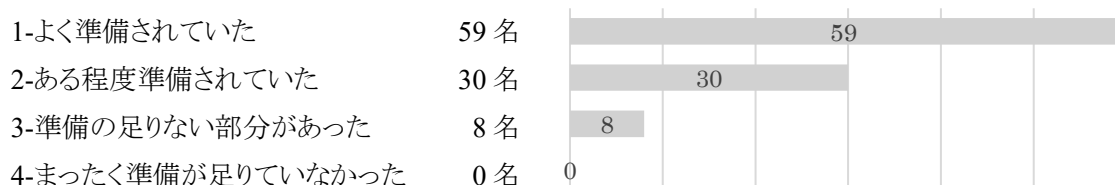
[17b] OSSMA のサポート態勢は十分だと感じましたか？



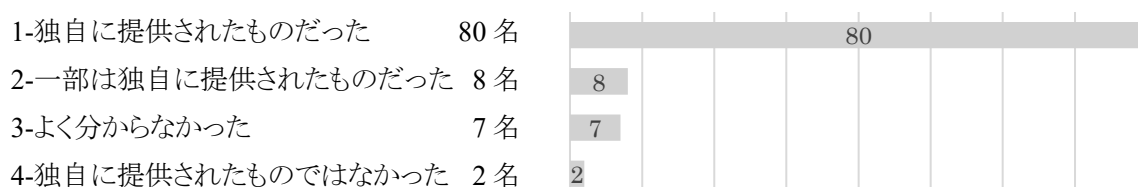
[18] 受講前に海外旅行・海外滞在の経験はありましたか？



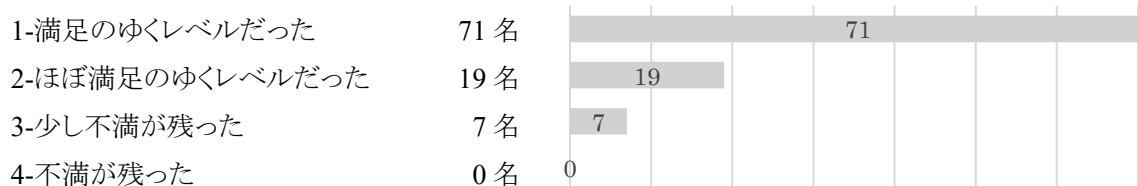
[19] 海外研修のプログラムはよく準備されたものでしたか？



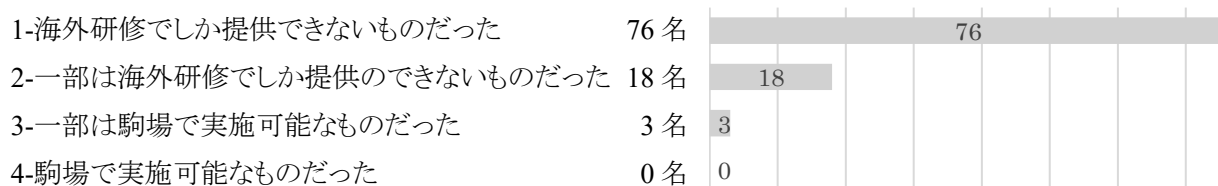
[20] プログラムは東京大学(および提携先の大学)の学生ために独自に提供されたものでしたか？



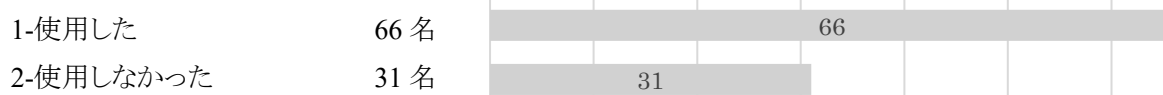
[21] 受講したプログラムのレベルはどうでしたか？



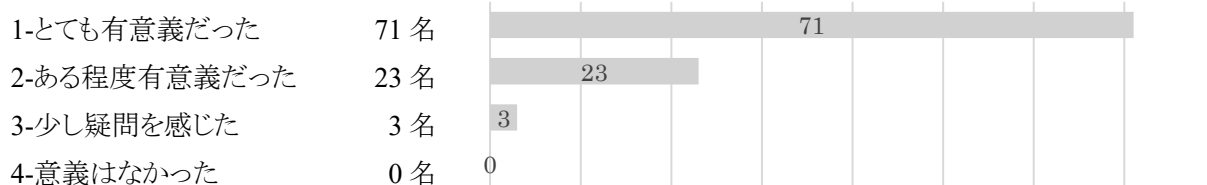
[22] プログラムは海外研修でしか提供できないものでしたか？ それとも駒場キャンパスでも実施可能なものでしたか？



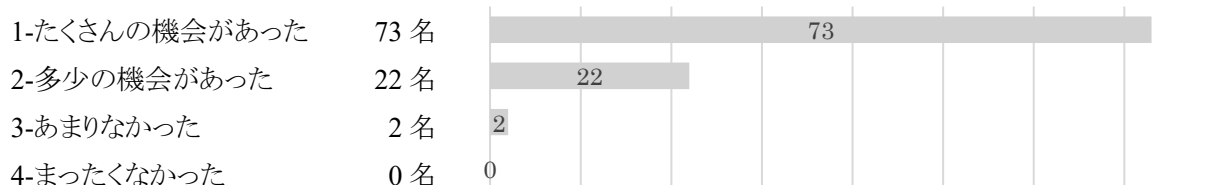
[23] プログラムでは英語以外の言語を使用しましたか？



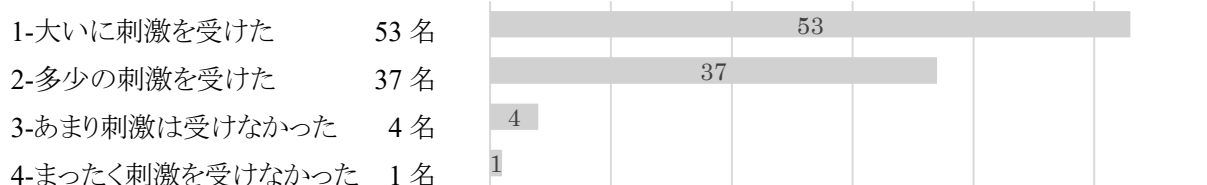
[24] プログラムは外国語使用の場として有意義なものでしたか？



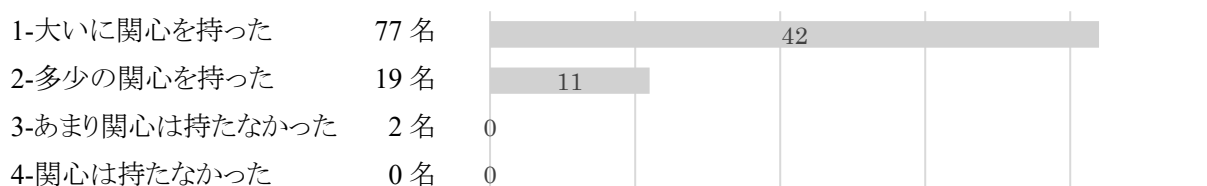
[25] 海外研修において現地の学生との交流の機会がありましたか？



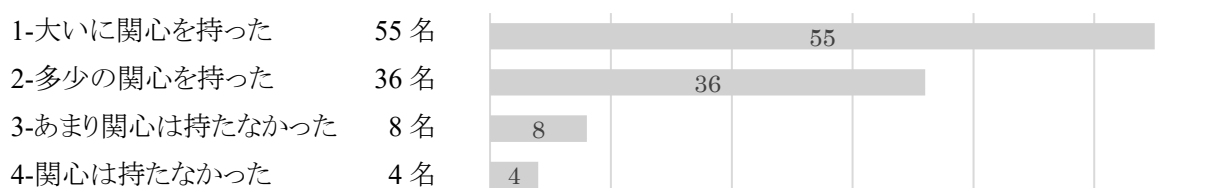
[26] 質問[25]で「機会があった」と答えた人は、交流を通じて学問的な刺激を受けたと感じましたか？



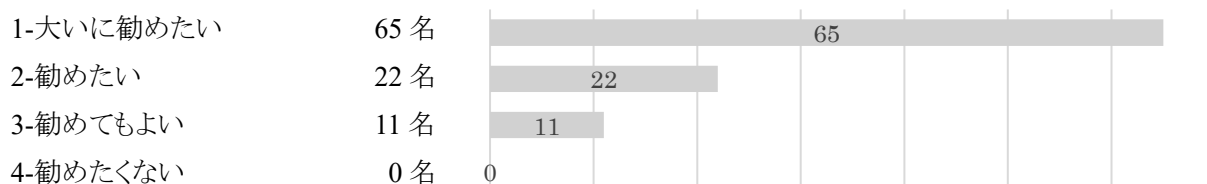
[27] 海外研修を通じて研修先の国・地域の文化に関心を持ちましたか？



[28] 国際研修を履修することで長期留学への関心を持ちましたか？



[29] 受講したプログラムは他の学生にも履修を勧めたいものでしたか？



[30] 今後、国際研修科目の開講数はふやすべきと思いますか？

